

RCC NEWS

※RCCは「いわき明星大学 地域連携協議会」の略称です。

CONTENTS

- いわき明星大学地域連携協議会「会報誌RCC NEWS」発刊にあたって
- [産業部会]事業計画の取り組み
- [教育部会]事業計画の取り組み
- [産業部会]授業関連の取り組み
- いわき若手リーダー育成塾第2期 募集要項
- フラフェスタinいわき明星大学 学園祭について
- 震災アーカイブ室について

いわき明星大学地域連携協議会（以下、協議会という。）が平成27年7月に発足してから、満2年が経過し、遅ればせながら協議会の活動内容を学内外に広く知っていただくため、また協議会の足跡を残しておく必要があることから会報誌「RCC NEWS」を刊行することになりました。

そもそも大学には研究、教育、社会（地域）貢献という三つの使命があります。勿論、教育や研究も直截的ではありませんが、表現を代えれば時差のある、延引的な社会貢献を果たしています。直截的な社会貢献としては医学部・歯学部においては附属病院における診療がそれに当たります。本学においては各種の生涯学習講座の開講、心理相談センターにおけるカウンセリング、図書館・講堂・グラウンドなどの施設提供、学生のボランティア活動等様々な社会貢献を行ってまいりました。

社会貢献は本来利他的なものです、相互扶助であり共存、共生、さらに最近目に付く言葉に置き換えれば共創ということになります。生物が生き延びていくことは容易ではなく、絶滅した生物は数限りなく、天敵の存在、弱肉強食は生物界の法則なのかも知れません。一方、蟻の社会における相互扶助、腸内細菌の宿主への便益など数を挙げれば結構な数の共存、共生例があり、生物種の保存に寄与しています。

大学の社会貢献についていささか冗漫な紙幅を割きましたが、社会貢献を通じて大学が社会・地域とともに共創していくためのプラットフォームが必要であることに論を待つまでもありません。文部科学省は私立大学等経営強化集中支援事業あるいは私立大学等改革総合支援事業を通じて改革に取り組んでいる大学には経営補助金の上積みを行っています。アメとムチ政策をとれますが、それはともかくこれ等の採択審査の評価項目として、自治体、地域・産業界等との連携をあげています。昨年施行された「ひと・まち・しごと創生法」にも通底する文部科学省の施策であり、協議会が共創のためのプラットフォームであると考えられる所以に他なりません。

さて私は平成26年4月に学長に就任いたしました、人文学部を改組転換して平成27年から新たに設置された教

いわき明星大学地域連携協議会 「会報誌RCC NEWS」 発刊にあたって



いわき明星大学 学長

山崎 洋次

養学部においては地元企業・団体等との連携を強化したキャリア教育の必要性を強く感じておりました。そこで事務局と相談の上、キャリア教育を加速させるために協議会を設けることといたしました。協議会設立に対して異を唱える者がいるはずありませんでしたが、当時の事務局長から企業・団体だけではなく、謂ってみれば大学の入口論という観点からは非常に重要な地元高校との連携も包含した協議会組織であることが望ましいという意見が提出されました。高校との連携が入口論ならば、キャリア教育は出口論ということになります。

以上のような経緯で、協議会は企業・団体との連携を図る産業部会、高校との接続を強化する教育部会の2部会制とすることにいたしました。そして会則の整備、関係組織との協議等を行い、僭越ながら協議会会長はいわき明星大学学長があたり、産業部会長は正木好男・いわき商工会議所副会頭に、教育部会長には遠藤雄二郎・福島県校長協会大学入試対策委員会委員長（湯本高校校長）にお願いすることになりました。また役員すべての皆様のお名前と御所属については割愛させていただきますが、参与に清水敏男・いわき市長に御就任いただくことができました。御就任いただいた協議会役員の皆様には誌面を借りて改めて御礼申し上げます。

ここで会則から協議会の名称、目的、事業にかかわる条項に限って、下記に転載させていただきます。

協議会が発足して満2年、大学側の努力不足で当初の活動目標が十分達成できているとは思いませんが、協議会の皆様の御支援をいただき、また新しい協議会会員をぜひ迎えて本協議会を発展させてまいりたいと存じます。

本学は昭和62年4月に開学され、今年は開学30周年にあたります。開学にあたってはいわき市から約46万平方メートルの校地提供と校舎建設費用として30億円の資金援助をいただきました。つまり地域による地域のための大学として設立された原点を再確認して、本協議会とまさに手を携えて大学を伸長させてまいりますので、ますますの御交誼をお願いして会報誌刊行の御挨拶とさせていただきます。

- | | | |
|------|-----|--|
| (名称) | 第1条 | 本会は、いわき明星大学地域連携協議会 Regional Cooperation Council Iwaki Meisei University (以下「協議会 RCC」という。)と称す。 |
| (目的) | 第2条 | いわき明星大学は、いわき市からの招致をうけて地域で活躍できる人材の養成を目的として開学された。この開学の趣旨を遵奉していわき市を中心とする地域の負託に応えるために、いわき明星大学は地域の後期中等教育機関、企業・団体との連携を重視した学士教育を行うことが求められる。そこで、協議会は、三者（いわき明星大学、後期中等教育機関、企業・団体）間の連携が円滑かつ有効に機能することを目的とする。 |
| (事業) | 第3条 | 協議会は、前条の目的を達成するために、次の各号に掲げる事業を行なう。
(1)地域振興に関する会員相互の情報の交換と共有
(2)地域連携による教育研究と産業の振興
(3)その他、協議会の目的達成に必要な事業 |

産業部会 事業計画の取り組み



包括連携(協定等)の推進について

近年、産官学のいずれか2者間で包括連携協定を結ぶ動きが活発になっている。

本学でも今年2月に株式会社東邦銀行と、4月には常磐興産株式会社、6月には株式会社福島民報社と包括連携協定を相次いで締結させていただいた。

包括連携協定は協働(コラボレーション)推進のための枠組みの一つで、個別連携協定による場合よりも、それぞれの事業企画の発想の幅を広げることに役立つ。また地域社会に対するアナウンスメント効果も大きく、互いの連絡・調整コストを下げることに資する、などの理由で活発化しているものと思う。

3社にはすでに開学以来、学生の就職、インターンシップ受け入れ、授業への協力(講義、取材)等の面でお世話になっているが、より質の高い協働事業ができるよう、お互いにこの機会を活用したい。

ここでは本学の教育にとって、という限定

の中で連携先3社の魅力を記したい。

株式会社東邦銀行は県トップの地銀であり、企業理念の最初に「社会的使命」を挙げておられ、それをいくつも体现しておられる。本学の教育にとっては、地域企業経営の生の知識、気付き、エピソード等の情報が魅力的である。また大学発ベンチャー起業支援も可能である旨、お話を伺っている。

常磐興産株式会社はスパ・リゾート施設として全国的に知られるが、石炭産業からの転換を見事に成し遂げたその経営史は、地域社会とも関係が深く、いわき、福島の地域資源である。またすでに本学フラダンスチームの指導もいただいている。

株式会社福島民報社は県下一の発行部数を誇る県民紙である。協定締結式で高橋社長から事業定義「われわれは地域づくり会社」とお聞きしたことが強く記憶に残っている。まさに地方新聞社の本質的な使命である。

ところで、協働の「協」の字には力が3つあるように、1つの仕事を複数人で力を合わせて行うことを意味している。しかし現代では、力よりも知識、ノウハウ、ブランドといった知的資源の相互活用が重要なのは言うまでもない。そしてその資源は「人」を介して活用することになる。デジタルデータにはそぐわない、人に「粘着した」アナログ情報、知的資源である。協働の「働」の字は「人が動く」と書くが、まさに協働は人と人の関係に帰する。やはり、パソコンの前に座っているだけでは協働は進まない。つまり、組織間の連携とは言っても、本質は人と人の連携なのであろう。

本協議会が、そのような意味での地域連携のプラットフォームになれるよう、知恵を絞りたい。

いわき明星大学
地域連携センター長 山口 憲二

トピックス

包括連携の活動成果報告について

本年4月に当社と包括連携協定を締結し、「スポーツや文化活動を通じた地域社会の活性化に向けた取組み」の一環として、発足したばかりのIMUフラダンスチーム「モアナ アヌエヌエ」を指導しております。

当初3名でスタートしましたが、現在は7名在籍しており、週2回のレッスンに熱心に取り組んでおります。

発足当初より、8月の「カレッジフラコンペティション2017」に出場することが目標となっておりましたが、フラ経験者は2名しかおらず、1チーム最低4名以上で構成しなければならない団体の部への出場はどうなることかと思ったのが正直な感想でした。

普段の練習では、基礎を中心に、単なる振り付けだけではなく、その曲・踊りの持つ『意味』や『背景』を理解させることにより、表現力を身に着けさせるレッスンをしてきました。

コンペ当日は、「4月に発足したばかりでの出場」の旨を紹介され、観客から驚きの声がかかる会場の雰囲気もありましたが、初めての大会出場緊張もある中で、選抜された5名は精一杯の踊りを披露してくれました。

また、ソロの部に出場した学生(教養学部3年)は、「表現力」で観客を魅了する踊りができたと思います。

団体の部・ソロの部ともに入賞こそありませんでしたが、「フラのまちいわき」から出場したチームとして、貴学の存在を十分にアピールできたのではないかと思います。

フラは踊りの基礎も大切ですが、フラには「Alohaの心」があります。普段の生活から調和・協調性、助け合う気持ちを大切に、さらには忍耐など様々な意味があり、それが踊りの表現力として現れます。

まずは、自分が踊るを楽しむこと、そして、できる・できないではなく挑戦・努力を楽しむ姿勢、その思いが観る人に伝わって「表現力」となりますので、大会に入賞することだけの目標ではなく、「Aloha」を表現できるチームとして成長させていきたいと思っています。

常磐興産株式会社
常磐音楽舞踊学院 副主事 大森 梨江



看護学部

いわき明星大学 看護学部スタート

看護学部は、福島県いわき市に所在する大学として、地域の発展、特に震災被害を受けた福島県の地域医療に貢献できる自律的で実践力のある看護師を養成することを目的に、本年、4月86名の学生(内88%が福島県出身者)を迎えてスタート致しました。(看護学部長 久米 美代子)

① 白衣授与式



4月22日に、いわき明星大学白衣授与式が執り行われ、学生代表の小野詩織さんが臨地実習に向けての誓いの言葉を述べました。

看護師としての将来の夢や希望を新たにし、学生一人一人が自分自身への決意表明ができたと思います。

山崎桃子さんが、学生代表として学長から白衣を授与されました。

② フレッシューズセミナーの学修風景

フレッシューズセミナーは大学生としての学修のために必要な基礎的かつ汎用的な能力を育成することを目標としています。

5月22日のセミナーでは、東日本大震災がもたらした様々な影響を理解するために地域住民の方々にお話を聞いたり、学生が直接インタビューさせていただいて「聞く・話す・調べる」技法を学びました。写真はその講義風景です。

講義、演習と密なカリキュラムですが、1、2年生ではクラブ活動も活発に行って大学生活を満喫してほしいと思っています。



教養学部

教養学部は1年生から3年生まで揃い、学部らしくなってきました。3年生からは本格的な専門教育が始まりますが、その中心になるのは「専門ゼミ」です。教養学部では、日本語学、英語学、比較文化、哲学、社会学、社会学、法学、経営学、そして心理学などとともに、ロボット工学、通信工学など理系を含む多彩な研究分野の専門ゼミが開講されています。各ゼミとも、徹底した少人数教育で、各分野の専門知識・技術を学んでいます。

教養学部のもう一つの柱であるキャリア教育については、仕上げる的な科目である「キャリアデザイン3、4」の履修を通して社会を知るとともに、民間企業、公務員、教員という各自の希望進路に適した学修を行っています。その基礎になるのは2年次に行われるPBL型と呼ばれる授業であり、昨年度の成果は『大学キャリア教育としての地域連携型PBL』(雄峰社、2017)にまとめられていますので、ぜひ、ご覧下さい。(教養学部長 林 洋一)



各クラスの代表が「私のキャリアデザイン」を発表
(キャリアデザイン3)



昼休みに英会話を楽しむ学生たち
(IMU English Chat Room)



磐城平城跡地活用の提案を発表
(PBL型授業)

人文学部

人文学部3学科(表現文化・現代社会・心理)は、実質的役割を終える「最後の年」を迎えました。しかし、4年になった学生は卒業研究に、そして就職活動に積極的に取り組み、その成果を上げつつあります。目標は、もちろん就職率100%です。留年者は少数ですが、年度末の進級を目指して勉学に取り組んでいます。(人文学部長 林 洋一)



学内合同企業説明会の様子

薬学部

薬学部は平成19年に開設され、現在11年目を迎えています。6年制薬学教育では、質の高い薬剤師の輩出が求められており、豊かな人間性、チーム医療における円滑なコミュニケーション力、持続可能な主体的学修力、課題探求・問題解決能力を身につける「医療人教育」を初年次から行うことが必須となっています。

本学部では、学生の潜在能力を自己力で点火する(Ignite)「イグナイト教育」とその発展形の「プレゼンテーション」、「地域災害医療学」などを独自の教育プログラムとして展開することで目標への到達を手助けしており、その一部をご紹介します。

1年生では、学生が大学生としてのスキル、リテラシーを身に付けるために、アクティブラーニング形式で「イグナイト教育1A」を行っていますが、教員が全学生の顔と名前を覚えることに繋がっており、教員と学生の距離を近づけることに一役買っています。学年が進むごとに、様々な体験学習(病院、薬局、製薬企業、行政機関見学、高齢者・妊婦体験学習、一次救命措置等)と専門性の高い課題についての問題発見・解決能力を引き出す幾つかのイグナイト教育科目、さらにイグナイト教育の総まとめである4年の「プレゼンテーション」で医療薬学的課題を調査・情報整理・分析し発表することで、

自己研鑽能力を獲得し、5年生の実務実習に繋がっています。

また、浜通りに位置する本学の独自科目として、「地域災害医療学」があります。東日本大震災時に本学臨床系教員がいわき市薬剤師会や医師会と連携し、地域医療の保全に貢献しました。これらの経験から、大災害から地域医療を守り復興・発展させるために「医療従事者は何に配慮し何をすべきか」「どのような薬剤師職能を練磨する必要があるのか」等を実際に活動した医療人の証言やデータをもとに討論します。また、浜通りにおける医療の現状について調査し(被災地にも赴き)、課題の発見、解決策について小グループ討論を通じた提案を行い、地域医療について深く考える機会となっています。

これまで述べた以外の独自教育は、薬剤師国家試験においても大きな成果を挙げています。昨年・今年の薬剤師国家試験において2年連続、合格率全国1位となりました。これは、物理・化学・生物を中心とする基礎科目から応用科目まで「連続的で一貫した専門教育」を展開する傍ら、低学年から高学年まで繰り返して反復学習する科目「ファーマドリル」を展開していることが大きな要因です。5年生以上では自己研鑽能力が醸成されているため、学生は



NHK吾妻アナウンサーによる「話し方講座」(イグナイト1A)

自主的に学修(学習)し、特に国家試験前の半年間は、皆、必死で勉強しています。これをサポートするために学生の自習場所を提供し、学生が「勉強したい」という気持ちに応えているのも大きな特長です。

さらに、本学部ではチューターに加え学年全体を把握する学年主任を置いています。1学年90名定員の学部で、学部長・学科主任・学年主任・チューターを配置し、全学生を細かくフォローする体制を敷いている点は特筆すべき点と言えます。このように、薬学部は初年次からの学修能力の開発プログラムを実践し、手塩にかけた教育を実践し、学生と教員との距離が近く、また、少人数教育という環境の良さも相まって、薬剤師国家試験の成果が現れているのは「偶然の産物ではない」と考えられます。

(薬学部 教授 山崎 勝弘)



科学技術学部

科学技術学部では、4年生がそれぞれの卒業研究に取り組んでいます。いくつかの研究室の様子を紹介します。

中田研究室

透過型顕微鏡(TEM)の操作練習をしているところです。卒業研究が進むと、研究対象の物質の構造を確かめるために使用します。



中尾研究室

小中学生対象の電子工作とプログラミングワークショップで、4年生が子供たちの指導を行っています。とても分かりやすいと評判でした。7月には川内村で開催され、4年生5名が指導にあたりました。



高橋研究室

サッカー競技用ロボットのプログラム開発を行っています。写真は、ロボットの動きをプログラムしているところです。自律型二足歩行ロボットの姿勢制御や、ボール検出などの課題に取り組んでいます。



産業部会 授業関連の取り組み

インターンシップ(教養学部3年)について

いわき明星大学教養学部は、自ら主体的に考え行動できる社会人・職業人となるために必要な「社会人基礎力」と「汎用的技能」を身につけた地域社会を支える「地域基盤型職業人」の養成を目指しています。このため1年次から専門教育と連携した体系的な「キャリア教育」を実施しており、2年生と3年生では「キャリアデザイン」科目が必修となっています。これに加えて、選択科目として「インターンシップ」についても体系的に学ぶことができます。本学の「インターンシップ」は、いわき市、いわき商工会議所などのご協力、本学の地域連携協議会会員様など多くの関係者の皆様のご協力をいただき、毎年着実に進化をとげております。



いわき市役所 文化スポーツ室 文化振興課

その1 インターンシップ

常磐興産株式会社

2017年4月、本学は、常磐興産株式会社と包括連携協定を締結しました。同社のご協力により2015年夏より、同社の「スパリゾートハワイアンズ」においてインターンシップを毎年実施しております。今夏は、8月18日(金)から9月7日(木)までの3週間において、教養学部3年生計11名が参加しました。11名を3班に分け、レジャー、商品販売、レストランの各部門を1週間毎に体験しました。このインターンシップでは「健康と観光」をテーマとして地域ビジネスに寄与する提案を行うことが要求されております。これに従って、参加者全員は、実習で学んだ内容をベースに、独自のアイデアを盛り込んだ提案を作成して、最終日に一人ひとりプレゼンテーションを行いました。



レジャー部門



レストラン部門

上記2社のみならず、今後も特色のある企業と包括連携協定を締結することで、一層充実したインターンシッププログラムを開発・実施してまいります。

その2 インターンシップ

株式会社福島民報社

2017年6月、本学は株式会社福島民報社との包括連携協定を締結しました。連携事項の一つに人材交流及びインターンシップが含まれております。このため、8月21日(月)から8月25日(金)の5日間、本学初の新聞社におけるインターンシップとして、学生3名が参加しました。初日はいわき支社において、同社の事業内容、沿革、組織などの説明をいただき、2日目には、福島市の本社で印刷センターを見学、その後、総務局・経理局・広告局・総合メディア室などを訪問、3日目は、相双地区を訪れ復興状況を視察、4日目と5日目は、福島県内のみならず、日本全国や世界情勢など、最新のニュースを取材する報道部や営業部の業務を直に体験しました。参加学生は、マスメディアの役割、情報発信の重要性を肌で感じ、新聞がいかに地域住民に密着した存在であり、情報を正確かつ迅速に伝達する使命があることを学びました。

その3 インターンシップ

株式会社ドームユニテッド

株式会社ドームユニテッドは、株式会社ドームの子会社で、各種スポーツ用品の販売や物流業務を行っています。ドームは、米国のスポーツアパレルメーカー「アンダーアーマー」の日本総代理店を務め、2015年1月より読売巨人軍と5年間のパートナーシップ契約を締結しています。「いわき市を東北一の都市にする」をモットーとするサッカーチーム「いわきFC」を運営する株式会社いわきスポーツクラブも関連会社です。昨年度に引き続き、8月18日(金)から8月31日(木)までの2週間、物流や商品販売に関する職業観の醸成を目的として3名の学生が参加しました。企業理念であるスポーツの素晴らしさを伝える伝道師として「スポーツを通じて世の中を豊かにする」こと、商品をお客様にお届けして喜んでいただくことの素晴らしさを学びました。



ドームいわきベース



ドーム物流センター

これからも、本学は、企業様・団体様のご賛同ならびにご協力を賜りながら、インターンシップの機会を最大限活用して、将来、学生が有為な社会人となって企業や社会に貢献できるよう人材育成に努めてまいります。

教育部会 事業計画の取り組み

湯本高校1年生を対象とした一日総合大学の実施について

地域連携協議会教育部会参加校である福島県立湯本高等学校の1年生約240名が5月26日、本学に来学し「1日総合大学」として大学の講義を体験しました。この取り組みは、湯本高校の生徒の皆さんに講義体験を通して学問の面白さや、学びへの探求心を深めてもらうものとして、同校の主催、本学の協力によって今年初めて実施されました。

体験していただいた講義は、本学で学べる学問系統の心理学、語学、経営、薬学、看護学など全部で12種類で、生徒たちはそれぞれの興味に応じて2コマ受講しました。例年人気の高い心理学の講義では、心理学の研究対象の一つ「錯覚」について楽しみながら理解を深めていました。また、今年4月に新たに開設した看護学部の講義では、看護師の職種やその仕事内容、その後のステップアップなどを具体

的に紹介し、看護師を将来の進路のひとつとして考えている生徒は真剣にメモをとっていました。

同校と本学は、2011年より高大連携の締結をしており、積極的な高校・大学間の交流を行っています。今後も連携をより強固なものとして教育の発展に努めてまいります。



例年、高校生に人気のある心理学の講義(心理学の研究対象「錯覚」について理解)



今年、本学に開設した看護学部の講義(看護職の魅力について説明)

募集要項

いわき
若手リーダー育成塾
第2期

企業人としてのキャリア観を明確にした上で、自律的リーダーシップを発揮するための考え方とスキルを習得する。各回とも講義と討議を行い、各社の実情に即した文脈で理解し、明日からの仕事に役立てることを目的とする。さらに、いわきの次代を担うリーダー人材のネットワーク化を促進する。

- 研修日時／平成29年11月1日(水)、11月15日(水)、11月29日(水)の全3回 各回16時00分～18時00分
 ■研修場所／いわき商工会議所内会議室 ■受講料／①会員企業10,000円 ②非会員企業20,000円
 ■研修内容／

第1回(11/1)	第2回(11/15)	第3回(11/29)
講義&討議① 企業人としてのキャリアデザイン ●キャリアの振り返りからはじめるキャリアデザインの意義を学ぶ ●キャリアを考える多様な切り口を学び、キャリア観を明確にする ●キャリアにおける課題-ミスト(霧)とプラト- (停滞) 解消を考える	講義&討議② リーダーシップとフォローシップ ●自分が持つリーダー像や、リーダーシップの考え方を振り返る ●組織の中でのフォロワーとしての立場と役割を再考する ●ビジネスケースを討議して自らの考えを深める	講義&討議③ リーダーシップの持論形成へ ●リーダーシップの理論や実例をあらためて学ぶ ●討議を経て組織で次世代リーダーとしてどう活動していくべきか、自らの「リーダーシップの持論」を煮詰める ●これからの行動指針「リーダーシップ宣言」を発表

■講師プロフィール／



山口 憲二 [教養学部 教授、地域連携センター長]

群馬大学大学院社会情報学研究科修士課程修了 中小企業診断士試験合格(1993年)、松下電工株式会社(現パナソニック)、新潟学園短期大学等を経て2015年4月より現職、群馬大学・高崎経済大学兼任講師、いわき市まちづくり市民会議委員長(2016～)

◆研究テーマ: キャリア論、経営学(経済性分析)

◆著書・論文等: 「キャリアデザインの多面的探究」(編著、現代図書、2008)、「200万人のキャリアデザイン講座」(編著、現代図書、2010)等、「中小企業の業績推移分析(2005-2012)」、「大学進学の実証的分析」(単著論文)

◆公的委員等: 福島県中小企業審議会委員、いわき市まちづくり市民会議委員長



大嶋 淳俊 [教養学部 教授]

東京大学大学院 修士課程修了(修士) 博士課程単位取得満期退学

立教大学・大学院、多摩美術大学の兼任講師、昭和女子大学 現代ビジネス研究所 研究員

APEC人材育成事務局に出向、三菱UFJ系総合シンクタンクにて中央官庁(経済産業省、総務省、厚生労働省、文部科学省 等)の調査研究と、民間企業(大企業から中堅企業まで)のコンサルティングに従事。2016年4月より現職

◆研究テーマ: 経営戦略、リーダーシップ、イノベーション、人的資源管理、eビジネス、IT活用

◆著書・論文等: 「eビジネス&マーケティングの教科書<第2版>」学文社(単著) 「情報活用学入門」学文社(単著)、「図解わかるeラーニング」ダイヤモンド社(単著)、「情報教育事典」丸善書店(共著)、「日本企業の次世代リーダー育成プログラムについての研究」(単著論文)など学術論文 多数

◆政府委員会委員、経営幹部向けリーダーシップ研修の主任講師、いわき市役所委託事業 統括 等

◆大嶋淳俊 研究室 <https://oshima-lab.wixsite.com/research>

お知らせ フラフェスタ
in いわき明星大学
学園祭について

- 日時／平成29年10月22日(日)
10時00分～15時00分(同日、学園祭2日目)

- 場所／いわき明星大学 本館前の特設ステージ

- 出演チーム／

好間高校(フラガールズ甲子園2017最優秀賞校)
 湯本高校(フラガールズ甲子園2017特別賞総合5位)
 本学のフラダンス団体、他多数

- スペシャルゲスト／

- スパリゾートハワイアンズ・ダンシングチーム
(常磐興産株式会社)

学園祭は10月21日、22日の2日間開催しておりますので、ぜひお越しください!



震災アーカイブ室について

震災アーカイブ室は、2011年3月11日に発生した東日本大震災と原発事故の記憶を後世へ伝え、新たな被災地に経験や教訓を生かすことを目的に、2012年4月に開設されました。

現在、いわき市震災メモリアル事業の推進に協力し、震災遺品・資料・文献・写真・映像などの調査・収集・保存に取り組み、本学会館1階にて収集物などを展示しています。また、被災地域の高等教育機関として、学内だけでなく学外からの様々な「震災」「防災・減災」などに関する教育ニーズにも対応しております。



ご投稿のお願い

RCC NEWSは、行政、企業、教育の思索や取り組み、成果等を互いに交換し合う共通のプラットフォームを提供することを目的として創刊しました。

多くの方々のご投稿を期待いたします。